

光受寺通信

NO.199

発行元 光受寺
R7・8・1 発行



真宗門徒」との「お盆」とは

私たち真宗門徒のお盆は、一般的に言われてる追善供養（故人がより良い世界に生まれ変わる）ことを願うとともに、その善行が自分自身にも返ってくる）のために迎えるものではあります。

しかも人を「諸仏」としていただき、私たちを眞実の生き方へ導いて下さる仏さまと受け止め、亡き人の方から私たちに「眞実に目覚め、眞実に生きよ」と呼びかけ下さいました」とか、「お仏壇やお墓のお守りをして下さる」とか「お盆に供養して下さる」とかしていただき、「大切な「問法の機縁」として受け止めています。

今年の夏は格別に暑かつた。35度前後の気温が一ヶ月続いた。しかし、この気温に湿度が加わり、蒸し暑さで熱中症寸前のバーベキューの毎日だった。
この状況は温暖化現象の顕著な兆候であると思われるのだが、むしろこれが、2010年秋で「は、気温は25度も上昇すると予想された」とも現実味を帯びて来る。
氷河は溶け、海面は上昇し、沈みゆく島や国、生態系への影響もまたも少なく、食料生産への影響は必至とあります。地球全体が少しずつしかも確実に壊れていくのが感じられる。

そして、何よりも大切なのが、温暖化の主な原因は「酸化炭素の排出」といわれています。私たちは快適で、便利な生活を得るために環境を犠牲にして生き続けてきたことを思つ。田先の利益だけに目を奪われて、将来を忘れてはいけなかつたか、今一度思いをぬぐらす時が来ていますように思つ。

ありゆの物の物価の高騰に悲鳴を上げ、米の不足に食べの不安を募らせられた。このまま、この地球の温暖化が続けば、やがては米も野菜も生産できなくなったり、いくら高くても購入できない食糧危機の時代がやがてくるような気がしてならないからだ。
「金だけ、自分だけ」の思想では、とうていこれから時代を生き抜いていけないことはできない。日本だけでなく世界がこのことに真から目覚め、この美しい地球を守つていかなければならぬ。
私たちに課せられてくる大切な願いとならなければならぬ。
地球がダメなら用があるが、宇宙があるが、は單なる人間の欲望に過ぎない愚かな思い上がりである。足るを知りない人間の愚かさである。宇宙まで壊さうとしている愚かさである。

お盆には欠かせないものなの?

日本の風習ではお盆には欠かせないお花だと思ふことがあります

が、「お盆」であつてもない「お盆」とはなことは思ふのです。
「お盆」をお盆に使うのは、「先祖様の靈を迎へ、道案内をする提灯に見立て飾るため」として思われて使われて下るからなのです。

そもそも真宗ではお盆には「靈」とか「先祖」がどこからか還つて下られるところを受け止めはしません。真宗のお盆は前記事の説明の「お盆」ですが、親族が集まる機会に、みんなでそろつてお参りする「お盆」は大切な日本の風習であり文化であり大切に守つて下始めたのです。



大雨の中、お寺サロフ開かれ。 (7月17日) 木 1時半~

「」数日のお天気は荒れ模様。全国では雨や風による被害が出てしまふのです。

そんな中ではありましたが光受寺におこし、お寺サロフが開かれました。傘も役に立たないくらいの大風の中でしたが、8名の方々が参加して下さいました。

「座つておののシニア体操」をテーマに、楽曲アカペラの伊藤喜美江さんの「指導の下、皆さん大いに楽しみながら体を動かしておられました。

住職も頑張って参加してみましたが、思ったよりキツイ運動でしたが、音楽で合わせて軽快に楽しむことができました。

廣専寺の若院さんからは、全国組織になつたといつ児童教化連盟の活動についてのお話しいただきましたが、真宗大谷派児童教化連盟から出されていく用や『このか』に掲載されてくる「詩」を紹介して貰いました。(下段掲載) 1955年、18歳だった岡本理恵さんの詩です。

強い衝撃が与えられた詩でした。(今では40歳ほどの彼女の詩から、私たちにはどんなメッセージを受け取るか) ができないのです。



一番好きなもの

岡本理恵(18歳)

過去を過去としと思つ
あのスマックで汚れた風が好きです
無感情な

時の流れに、自分自身に
たまらなく喜びを感じます
こんな私を助けて下せ
誰か助けて下せ
たつた一粒でもこのので
涙とこののを吐いてください

戦争が大好きです
飢えと寒さの中で
戦つて死んでいく姿を見ると
背中がぞくぞくするほど
楽しくなります
たつた一瞬でいいのです
こんな私に
尊さというものを吐いてください
私の名前は

人間といいます

この詩の「感想をお聞かせください。」

口頭でもメモでも結構です。
一言でもいただければ、ありがたいです。よろしくお願いします。

生まれたばかりの赤ん坊が
次から次へと
死んでいるかと思つと
心がゆつたりします

今月の掲示板

暗闇だからこそ
光に気づく

浄土宗 德性寺 掲示板

佛教においての「無明」とは、人間の苦しみや迷いを生み出す最も根本的な原因です。どんな人間でも、少なからず心の闇(無明)を抱えています。仏様(阿弥陀仏)の光はそんな私を常に照らし続けてくださっています。

佛教で「光」は仏さまの「智慧」や「慈悲」を表します。光を通して自分自身が抱える闇を見つめ、本当の自分の姿に気づいていくのです。

お知らせ

お寺サロフ

8月は休み。

光受寺学習会
8月は休み。